

プレルーツ探し

～ルーツ探し（親子面会交流）を始める前の事前準備について～

【 ルーツ探しと親子の面会交流は子供の持つ権利である 】

米国において 養子縁組家庭における親子の面会交流権とは 養子と離れて暮らしている生母と養子が直接会ったり それ以外の方法（手紙や写真 メッセージカードやプレゼントなど）により 親子が交流をするための認められた権利です。親子の面会交流権は 子供だけでなく生母の権利でもあります。親子である以上 互いに会いたいと思うのは自然の感情であり 子どもの福祉にも寄与しているためこのような権利が認められています。日本でも離婚家庭では既に認められています。里親家庭でも同様に認められています。同様のことが特別養子縁組家庭でも実施されてもいいと思います。

親子の面会交流は子供の権利なのでしょうか？という疑問が提示されている
特別養子縁組の生母と離婚家庭の親は背景が異なり同列には扱えない。法律

【 ルーツ探しあるいは親子の面会交流を行うにあたって 】

ただしすべての家庭においてルーツ探しと親子の面会交流が推奨されるわけではありません。ルーツ探しあるいは親子の面会交流を子供が行うことを望み そしてその推進が子どもの最善の利益に合致する場合においてのみ実施されるべきと考えます。

【 支援者(あるいは仲介者)に協力を依頼する 】

しかしルーツ探し(あるいは親子の面会交流)を子供単独で行うのはかなり困難です。また現在の日本において養親単独で行うのもかなりの苦痛と困難を伴います。ルーツ探しについて(あるいは親子の面会交流について) アドバイスしたり相談できるような支援者(あるいは仲介者)に協力を依頼するほうがいいでしょう。支援者としては特別養子縁組を取り扱っている事業者が適任でしょう。ここから先は支援者の視点で解説します。

【 ルーツ探し(あるいは親子の面会交流)が子供の最善の利益にかなうかどうかの判断 】

養親(あるいは支援者)は子供がルーツ探し(あるいは親子面会交流)をしたいと言い出した時その支援を行うことにより子供の最善の利益がもたらされるのかどうかをまずは検討します。

その際に以下のことについて検討します

- 養子について(養子の意志と意見について 今後の養子の生活環境に及ぼす影響について)
- 養親について(養親の意見について 養親が今後の養育に及ぼす影響について)
- 生母(生父)について(生母(生父)が現在抱えている問題点について)
- 養子縁組するに至った理由(養育を断念するに至った経緯 委託後の養子との関係について)などを考慮して ルーツ探しについて(あるいは親子の面会交流について)どのような方法で実施するのがいいのか検討します。

【 ルーツ探し(あるいは親子面会交流)を検討するにあたって 家族関係の評価 】

ルーツ探し（あるいは親子面会交流）を行うにあたって その家族がルーツ探しに耐えられるだけの良好な家族関係にあるのか判断します。親子関係は良好であることに越したことはありません。ルーツ探しを始めると親子の間に感情的な葛藤が発生します。親子関係が良好であれば感情的な葛藤があっても乗り越えることができますが もともと親子関係が良好でない場合はルーツ探しを契機として家族関係が破綻することもあります。親子関係が良好でないのであれば ルーツ探しを行うことよりも 何が親子関係を良好にさせていないのかその原因を探ります。

【 コラム ルーツ探しをする前には必ずカウンセリングが必要 】

子供がルーツ探しを始める場合 ほとんどが親子関係が悪くなってルーツ探しをすることが多い。その場合最も聞かれる言葉が『 預けられたから親子関係が悪くなったんだ 』『 生母が育てていればこんなことにはならなかった 』です。このような背景があるのでルーツ探しについて相談を受けた場合できるだけ直接会って話をするようにしています。

同時に親の承諾を得たのか尋ねるようにしています。ほとんどが養親に秘密で相談に来ています。そのためルーツ探しについて親子の間に話し合いができていません。まずは親子間で話し合いをするように促します。促すと一時的に連絡は途絶えますが時間はかかっても子供も親と向き合うようになります。

【 子供が反抗期で手がつけられない 】

子供が感情的に不安定であればその時期にルーツ探しは行いません。ルーツ探しよりもなぜ子供が感情的に不安定になっているのかその原因を探ります。感情的に不安定になっている原因が愛着形成障害やアイデンティティ形成障害にあるのであれば 心療科医師の診断のもと心理療法あるいはセラピストによる認知行動療法を優先させます。感情的に不安定になっている原因が思春期特有の子供の自己認識あるいは自立に基づくものであれば（親の支配からの解放や自分の意思表示）安定した感情制御ができるよう成長を促し少し待つことにします。

【 両親が精神的に不安定である 】

両親が精神的に安定していないのであれば 精神的に安定しない原因を探ります。ルーツ探しをすることへの不安が原因なのか 精神疾患やトラウマによって安定していないのか 親子間でのコミュニケーション機能不全による子供の反発が原因なのかを探ります。不安が原因であれば不安を取り除けるようにじっくりコミュニケーションをとり不安をほぐしてゆきます。うつ病などの精神疾患や不妊症のトラウマが原因であれば心療科医師の診断のもと心理療法やセラピストによる認知行動療法を優先させます。コミュニケーションの機能不全が原因であれば スキルの獲得を促すとともに一時的にコミュニケーションを代行したり子供の意見を仲介したりします。また両親の不仲（離婚問題）によって子供が不安定になっていることもあります。

【 両親の協力について確認する 】

ルーツ探し（あるいは母子面会交流）を行うにあたり両親の協力は不可欠です。両親の理解と協力が得られそうかまずは確認します。両親の理解と協力が得られるのであれば 両親の役割や具体的な支援内容について説明します。両親に秘密にしてルーツ探しを行おうとしているのであればどの

ような理由で秘密にするのか話を聞きます。家族不和が理由であればルーツ探しを薦めません。家族関係が険悪な状態ではルーツ探しが引き金となり家族関係が崩壊します。

またルーツ探しが『ここではないどこかに自分を幸せにしてくれる家族がいるんだ』という空想や逃避が動機で始めると両親も落胆し落ち込んでしまいます。このような場合時間がかかってもいいので両親と向き合い協力を取り付けることを勧めます。ルーツ探しは両親にとってあまり好ましくない依頼です。好ましくない依頼を受諾してもらうためには 養子が養親に近寄り養親の心情を斟酌する必要があります。斟酌したうえで受け入れられる言動を選択しなければなりません。養親さんはもともと聡明で心が広く寛容です。子供が斟酌して受け入れられる言動をしていることはすぐに見抜きます。近寄ってきた子供の心情と背景はすぐに理解してくれます。懐に飛び込んできたかわいい子供の頼みは無下には断れません。紆余曲折あっても何とかして受け入れるようになります。もともと養親さんは子供の強力な応援者です。子供のことが大好きです。

【 どうしても両親の協力が得られない場合 】

両親に秘密でルーツ探しを行おうと考えているのであれば どうして秘密にするのかその原因を探ります。両親が反対しているのであれば 反対する原因を探るとともに両親の不安が原因であれば子供のかわりに支援者が養親に説明することを提案します。

しかし どうしても養親の協力が得られず養子単独でルーツ探しを行うと決めてきてしまっている場合 本人に確固たる意志があり 精神的に安定しており ルーツ探しを行えるだけのプロジェクト推進能力があると判断した場合には やむを得ず本人だけでルーツ探しを支援します。この場合 断っても独力でルーツ探しを行いますので伴走しながらルーツ探しを支援します。たいては悲劇的な結果になります。養子の1割はどう反対しようと独力で行動します。

生母の現住所を入手したとたん居てもたってもいられなくなり支援者に無断で会いに行く子供もいます。米国では簡単なDNA検査で簡単に生母の住所が突き止められてしまいます。無断で会いに行ってはならないと念押ししているのにある一定数は飛び出して会いに行き拒絶されています。

【 離婚家庭における親子の面会交流について 子供の意見の反映 】

子どもがある程度の年齢に達している場合（特に15歳以上の場合）や子どもが15歳未満であっても監護親（養親）の影響を受けずに子どもが自分の意見をしっかりと述べることはできる場合は親子の面会交流について 裁判所は子どもの意見を重要視する傾向があります。同様のことは特別養子縁組家庭でも認められていいと思います。

【 どうしてルーツ探しをするのか 】

子供がルーツ探しを行う前に どうしてルーツ探しを行うのか自分に問いかけてもらいます。何が目的でルーツ探しを行うと思ったのか。知りたいだけなのか。見てみたいだけなのか。自分のわからなさを知りたいのか。様子が分かればいいのか。まずはそれを探ります。これによってその時点で子供が何を望んでいるのか大雑把な把握ができます。これにより方向性が設定できます。

【 知りたい内容は千差万別である 】

子供が知りたい内容は一人一人違いかかなり個人差があります。また同じ子供でも時期によって知りたい内容が変わってきます。思春期前までは お母さん悲しかった？ 私のこと大好きとって

欲しいです。思春期～若年成人期は母親のことが知りたいすべてが知りたい。30歳以降は医学的情報（成人病や癌家系でないか 家系でなりやすい病気）が知りたいという年齢による傾向があります。

【 何が得られたら満足なのか ゴールを設定する 】

自分の望みをあらかじめ探っておきます。何が得られたらゴールとするのかゴールとできるのか。ゴール設定を行います。ルーツ探しには様々な状況があります。ハッピーエンドで終わる場合もありますが そうでない場合もあります。探した場所にいなかった 見つかったけれども結婚して子供も生まれ面会できる状況ではなかった。母親の傷が癒えず面会を断られた。すでに死去していた。いろんな状況があります。その際に 何をゴールとするかによって目標も行動も変わってきます。そのためにあらかじめ何をゴールとするのか 何が得られたらゴールとなるのか予想し設定しておきます。

【 生母さんについて どんな感情をもっているか 】

子供がルーツ探しをする前に生母についてどんな感情を抱いているか把握しておきます。

生母さんへの肯定的な気持ちがあれば面会は肯定的な結果をもたらします。『 生母さんと面会してすごく興奮した 』『 自分を産んでくれたとても素敵な人。事情があつて育てられなかっただけ 』 この面会は生母さんにとっても肯定的な結果をもたらします。

生母さんへの否定的な気持ちがある場合 面会は悲劇的な結果をもたらします。この場合は面会させてはなりません。カウンセリングを優先させます。面会したければ否定的な感情を洗い流した後です。生母さんにも平穏な生活をする権利があります。生活を乱されない権利があります。否定的な感情を持つ子供は面会させてはなりません。

【 コラム 非常に危険な質問 】

生母さんにどんな質問をしたいかというテーマで養子さんに質問する機会がありました。するとその中には 『 その時の生母にとって 何が一番大事だったのか 』という質問がありました。これは直感的に危険な質問だなと感じました。傷つけたい仕返ししたい。そんな感情がこの質問からは透けて見えます。

この質問に対する生母の反応は様々でした。拒絶する生母もいました。泣いて謝る生母もいました。関係を絶とうとする生母もいました。口をきいてくれなくなった生母もいました。拒絶反応があまりにも大きく関係維持が困難になってしまうこの手合いの質問は非常に危険です。この質問をするような精神状態にある養子さんは面会や交流をすると関係が破綻します。むき出しのナイフです。このような精神状態の養子さんについては面会や交流をおこなわずに 養子さん自身のカウンセリングを優先させます。

【 子供にとってルーツ探しをするのに適した時期はいつなのか 】

ルーツ探しを行うにあたって適切な時期は今なのかを判断します。ルーツ探しは感情的な葛藤を伴います。子供が精神的に未熟な場合 あるいは反抗期で自分の感情が制御できない場合 子供が問題行動を起こして荒れている時期 落ち込んで切る時期にはルーツ探しを行いません。ベストな

時期は人生において一番調子がいいとき 様々な支援が得られる時期に 精神的に安定した時期にルーツ探しを行います。

また生母さんとの直接の面会は生母さんの実生活に直接影響を与えます。自制できる年齢や成人になってから面会するほうがいいでしょう。ただし養育委託された経緯についてのお話は年齢に関係なくいつから伝えてもかまいません。ルーツについて触れること自体はいつから始めてもかまいません。子供の成長に合わせてお話するといいでしょう。養親さんが日常の生活の中で自然に話題にしてもらおうといいでしょう。Life story bookを活用してもいいです。あるいは子供が生まれた産科施設を訪れるのもいいでしょう。看護師さんや助産師さんは母親の人柄についてよく知っています。子供に配慮しながら人柄についてお話をしてくれます。保護施設が乳児院であれば職員さんとお話をするのもいいでしょう。話題の中で生母さんの話が出てくるのでおぼろげながら人柄も知ることができます。支援団体と交流を継続するのもいいでしょう。生母さんからの写真をもらったりお手紙をもらったりプレゼントをもらったりするのもいいでしょう。これらは子供の宝物になります。生母さんに子供の描いた絵やお手紙を贈るのもいいでしょう。生母さんはこれだけでも救われます。この過程で生母さんの近況を知ることができます

【 子供はルーツ探しが扱える精神状態なのか 】

ルーツ探し(あるいは親子面会交流)はジェットコースターみたいにかかなり揺さぶられます。かなりの気分の浮き沈みがありかなりの感情的な葛藤を伴います。動揺は支えきれぬのか 怒りは扱いきれぬのか 拒絶された時は立ち直れるのか その時の感情を扱えるカウンセラーは準備できているのか。これらのことについてあらかじめ検討しておきます。

【 最悪な事態についてのシュミレーションを行う 】

ルーツ探しは必ずしも幸せな結果で終わるとは限りません。母親は自分で養育可能な状況であれば独力であっても何とかして育てます。それが出来ないだけの理由があったわけです。必ずしも子供が望む理由ばかりではありません。しんどい理由 ネガティブな理由 抱えきれない理由 悪い情報 悲惨な情報 たくさんあると思います。ルーツ探しを行うにあたって 最悪な事態のシュミレーションをたくさんしておきましょう。

シュミレーションはカウンセラーさんを相手に行ったほうがいいでしょう。様々な事態について実施します。最悪な状況 過酷な状況についてシュミレーションを行います。シュミレーションの過程で感情がかなり揺さぶられます。しんどいけれどもルーツ探しをするだけの耐性がつきます。

ルーツ探しや面会交流の過程についてもシュミレーションを行います。連絡したけれど返事がなかった。拒絶された。言い訳ばかりだった。子供が望まない経過についてもあらかじめシュミレーションしておきます。その過程で自分が何をゴールとするのかも見えてきます。

コミュニケーションについてもトレーニングを行います。高圧的な言い方をされたとき 支配的な話し方 怒りを誘われる話し方をされたときのシュミレーションを行っておきます。コミュニケーションが下手な生母もいます。トレーニングしておくことで振り回されずに済みます。これを行っておかないととても扱いきれなくなります。時間的に余裕がある時期にトレーニングを済ませておきましょう。

【 入手できた情報について子供が読む時の注意点 】

家庭裁判所の裁判記録や 医療機関の診療録や 児童相談所での相談記録は子供が読むことを想定していません。 養育できない理由について焦点を当てて記載しています。 養育を任せていいのか 任せると子供に危害が及ぶのか そうなるに至った背景について 安全なのか確認する目的で批判的に情報を収集しています。 楽観的な視点や前向きな視点で情報収集は行っていません。 そのため養子や生母が直接読むとかなり苦しいと感ずることがあります。 読みかたによってはとても差別的と感ずたり否定的と感ずます。 情報が入手できた場合 いきなり子供が読むのではなく支援者やカウンセラーさんが子供に受け入れやすいよう咀嚼して伝えるようにしましょう。 もし子供が直接読むのであればあらかじめ心の準備をしておき カウンセラーさんと一緒にあるいは相談できる態勢が準備できてから読むようにしましょう。

【 ルーツ探し(あるいは親子面会交流)における情報管理について 】

家庭裁判所の裁判記録や 医療機関の診療録 児童相談所での相談内容 あるいはルーツ探しの過程で得られた個人情報について 子供が不注意に他人に話さないよう重々釘を刺しておきましょう。 得られた情報は子供の情報でもありますが半分は生母さんの情報です。 子供が情報を得られるよう協力してくれた人たちは子供の幸せを願って協力してくれたのです。 その中には生母さんにとっては秘密にしておきたい情報もあります。 協力してくれた人達に迷惑をかけないためにもまた生母さんの尊厳と名誉を守るためにも軽々しく他人に話してはいけません。 子供には念入りに釘を刺しておきます。

【 ルーツ探しに子供はどんなことを期待しているのか 】

ルーツ探しを始めるにあたって 子供はどんなことを期待しているのかどんな夢(空想)を持っているのか探っておきます。 生母さんにハグしてもらうことであつたり 生母さんにお母さんも悲しかったんだよと言ってもらうことであつたりと どんなことを望んでいるのかあらかじめ探っておきます。 あるいは隠れた期待についても探っておきます。 ルーツ探しは 誰のために何のためにするのかというと子どもの最善の利益のために行うわけです。 必ず叶えられるとは限りませんが子供の望むゴール について叶えられるのであれば叶えられるように把握しておきましょう

【 子供の望むことは何か そしてそれは現実的か 】

子供が望むことは何なのか 子供自身に尋ねてできるだけ明確にしておきましょう。 それによりルーツ探し(あるいは親子面会交流)について 子供はどのような捉え方をしているのかを把握できます。 あるいは子供の期待(夢や空想)を書き出してもらいましょう。 書き出す過程においてそれが現実的なのか把握できますし そのための具体的な展開やアプローチについても把握できます。 そして 子供が現実離れした期待(夢や空想)をしていた場合 現実との落差に直撃することになりますが 予め把握できれば対策も打てます。 そして期待通りにならなかつた場合も想定することができます。

【 ルーツ探しをするにあたって子供はどんなことを心配しているのか 】

ルーツ探しを行うにあたって 子供はどんなことを心配しているのか 不安に思っているのかあらかじめ探っておきましょう。 生母に拒絶されること 養親との仲が悪くなること 自分が一人ぼっちになることなど 子供が不安に思ふことをあらかじめ掴んでおきましょう。

【 離婚家庭における親子の面会交流について 子供が乳幼児の場合の監護親(養親)の意見 】

子どもが乳幼児の場合では面会交流を実現するためには監護親(養親)の協力が必要不可欠になります。しかし 監護親(養親)が 子供がまだ乳幼児の時期においては 子供が養子縁組に至った経緯を考慮して 面会交流を認めることが子どもの精神的安定に多大な悪影響をおよぼす可能性があると判断した場合には 面会交流に消極的となり 面会交流が実施されない場合もあります。

【 ルーツ探し(親子面会交流)を慎重にするほうがいい事例について 】

生母(生父)に薬物使用の疑いがある場合や 反社会勢力の一員である場合 強請り窃盗を繰り返している場合 子供を連れ去る危険性が高い場合など 生母(生父)に問題行為や違法行為がある場合 ルーツ探し(親子面会交流)を行うことによって 子供に重大な危害が加えられる可能性がある場合は 慎重にするあるいは認めないほうがいい場合があります。

また 特別養子縁組に至った経緯が 生母(生父)の暴力であったり 子供に対する虐待やネグレクトであった場合 ルーツ探し(親子面会交流)を慎重にするあるいは認めないほうがいい場合があります。

【 コラム 実母と交流がある里親家庭について 】

支援センターに遊びに来ている子供が 『 今日はお母さん来てないんだ～ 残念～ 』 とつぶやいていた。子供は実母ともう少し会いたいのではないか。でも子供は里親さんにはなかなか言い出せない。そして里親さんもあまり乗り気ではない。子供の様子からもう少し面会させたらいいのではないかと推測された。

里親家庭の事例報告の抜粋であるが 里親家庭では面会交流があるのに なぜ特別養子縁組家庭では面会交流がないのか。どちらも子供の最善の利益のための制度である。子供が強く望んでいるのであれば親子の面会交流できるようにしてもいいのではないのか。そして親子の面会交流も工夫してもいいのではないか。

【 子供がルーツ探しをしたいと言い出すのは子供が成長した証である 】

子供は成長すると自分のアイデンティティについて考えるようになります。これは歓迎されるべきことであり悪いことではありません。そしてあるとき自分の中で疑問が湧くようになりました。自分は何故ここに居るのだろうか 自分は何者なのか 自分はどこからやってきてそしてどこに行くのか 自分の根っこはどこにあるのか。これは子供に複雑で抽象的な疑問について思考するだけの能力が備わってきた証拠です。子供に抽象を扱えるだけの高度な思考力が獲得できたからの質問なのです。子供の成長の証なのです。否定すべきことではありません。歓迎すべき成長の証です。

【 コラム ルーツ探し(親子面会交流)には同行支援があった方がいい 】

ルーツ探し(親子面会交流)を同行支援すると ドラマ以上にドラマチックでドキドキさせられます。心配したり 泣いたり ほっとしたり キュンとしたり 切なくなったりします。そしてジェットコースターのように急展開します。同行者も感情的に振り回されます。

子供には『 ルーツに触れた!! 』という直感を感じる時もあります。この感覚はその子供にしか分かりません。親がケチャップが好き。自分もケチャップが好き。ただそれだけのことです。でもこのわずかなヒントで自分の足が地につくのです。これだ!! これなんだ!! こんな感覚が子供にはあります。

なぜか自分はスプーンを持つ時だけ左利き。親もスプーンを持つ時だけ左利き。これだ!! 理屈ではありません。他人には理解できません。でもその子供だけにしかわからない感覚があります。

子供にはこれらの体験と一緒に共有してくれる人が必要です。ルーツ探しには伴走者が必要です。子供が苦しみを話している時 それを全力で受けとる人が必要です。批判するでもなく 同情するでもなく 意見するでもなく ただ相手の話をひたすら受け取る人。そんな伴走者が必要です。話をただ受け取るという技術を持ったカウンセラーが必要です。子供にとっては自分の物語に納得できたらそれでいいのです。余分な解釈やアドバイスは必要ないのです。そしてそれを受け取ってくれる そして傍にいてくれる それだけでいいのです。そんな伴走者が必要です。ルーツ探しにはリスクがあります。カウンセリングをしてくれるカウンセラーが必要です。

【 養子さんの相談業務における注意点 】

ネガティブなことばかり言う子供もいます。ネガティブな内容であっても相談員さんはひたすら受け取ります。その時の子供にとっては 吐き出すことが必要なのです。吐き出すことが背負った荷物を軽くするための大事な作業なのです。ひたすらに吐き出させます。ただし返事は別です。その子にとって適切なことを返してあげましょう。

子供は時に相手を傷つけてやりたいという気持ちも出てきます。突き刺さるような言葉を吐く子供もいます。相手を傷つける言葉を吐くとその時はすっきりします。でもささくれた気持ちは消えません。傷つけたい気持ちは消えません。こんな子供の場合はカウンセリングに進みましょう。

【 コラム 過去がブラックボックスという体験 】

自分の中には謎がある。その謎について自分では知ることができない。でも周囲の人は自分の謎についてひた隠しに隠そうとする。その謎について知ろうとすればするほど周囲の人の態度が硬くなる。やましいことがなければ話してくれてもいいのに どうやっても教えてくれない。やっぱり何かあるんだ。でもその謎についてどうしても教えてくれない。その謎について知っている人がいる。それが生母である。だから探す。

【 コラム 親の最悪と子供の最悪 】

親にとっての最悪は子供がルーツ探しをしたいと言い出すこと。しかしこれは子供にとって当たり前のことである。しかし親は気付いていないが 本当の最悪は ルーツ探しを拒絶することにより子供が家を出て行くことである。

子供の最悪はルーツ探しをしたいと言い出した時にサポートがないこと。親に拒絶されて立ち上がれないこと。手を差し伸べられないことである。子供はルーツ探しをしたいと言い出した時に家庭の中で孤立してしまう。しかも逃げ場所がない。最悪なのはこの時に逃げる場所が用意されていないこと。これをあらかじめ予想して子供が困った時に逃げ込める場所や相談できる場所を用意しておくことが必要である。

【 養子さんにも養親さんにも勉強会が必要 】

養子さんを対象とした勉強会が必要です。養子さんが陥りやすい悩みや状況についてあらかじめ理解しておいてもらう必要があります。けれども子供の状況によっては勉強会に参加できないこともあります。その場合はまずは相談業務からはじめるようにしましょう。相談業務の際に折に触れ子供に理解してもらうようにしましょう。

養親さんのための勉強会も必要です。ルーツ探しはやろうと思えば子供だけでもできますが 悲劇的な結果になることがあるのでお勧めはしていません。可能な限り養親さんと協力してルーツ探しをすることを推奨しています。そのためにも養親さんの理解が不可欠です。

養親さんはもともと子供に寛大です。子供にはできるだけ悩み苦しんでほしくない願っています。子供が苦しんでいるのであれば何とかして助けたいと心の底から願っています。そのためにも養親さんがスムーズに支援しやすいようにあらかじめ養親さんを教育してゆく必要があります。ルーツ探しの難易度は養親さんが勉強会に参加して子供の置かれた状況についてどれだけ理解するかによって変わってきます。もともと養親さんになる夫婦は高学歴で理解力もあり資金力も充分あります。勉強会に参加すればよき理解者となりよき協力者になってくれます。